

話題の

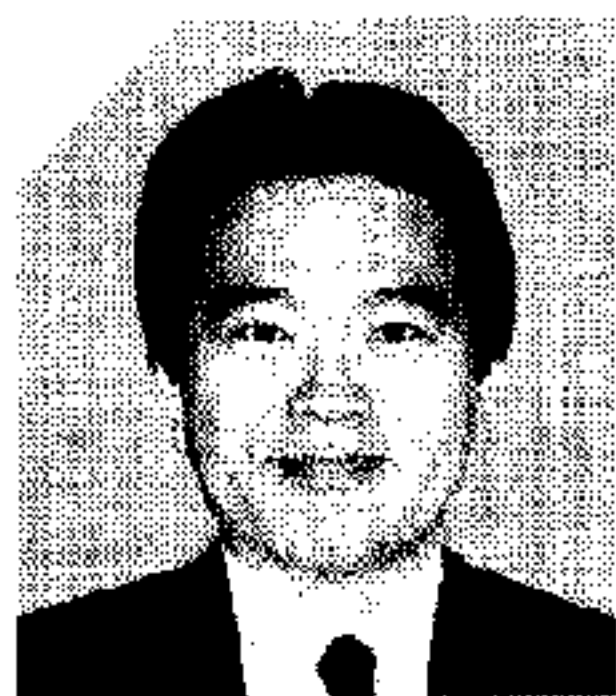
ベンチャー人

ベンチャー投資の拡大を狙って昨年十一月に投資事業有限責任組合法が施行された。

しかし、既存の大手ベンチャーキャピタル（VC）は投資成績の悪化で勧誘が思うにまかせず、新法に準拠した組合設立はまだない。そんな中で準拠第一号の「NTVピー一号組合」をスタートさせたのが、昨年四月にVC最大手のジャフコを退社した村口和孝氏（40）だ。

「組織に属してリスクのな

ベンチャー投資家 村口 和孝氏



い給与所得者の立場では、真のベンチャー投資のプロにはなれない」というのが独立した理由。普段持ち歩く名刺の肩書は「ベンチャーキャピタリスト」だけ。

慶応大学で経済学を専攻、「世界経済が大変動しても起業家の重要性は変わらない」と確信。そんな折にVCを知り、八四年の卒業と同時にジャフコに入社。

在社時に発掘した企業のうち

初の新法準拠「組合」設立

ち約十社が公開、百億円を超すキャピタルゲイン（株式値上がり益）を稼いだという。

「一匹おおかみ」の単独行動は社内ですら摩擦も引き起こしたが、投資結果は国内部門の中でも指折りの好成績。二回会っただけで第一号の組合に出資した堀場製作所の堀場雅夫会長は、「成功は未知数だが意気込みに共鳴した」と語る。

一号組合は三億三千万円と小粒。「今年中に投資を完了する」と自信をみせるが、「数億円の小規模ファンドではVCの運営経費を賄うのも難しい」との声もある。二号組合は大型の本格的ファンドだけに、無事スタートできるか正念場にさしかかっている。